

2019 年 8 月 1 日

2019 年度聖路加国際大学大学院修士論文

乳がん患者の妊孕性温存に関する知識獲得を目的とした看護師向け
e-learning 教材の開発：パイロットスタディ

**Development of an E-Learning Program for Oncology Nurses
Regarding Fertility Preservation for Breast Cancer Patients: A Pilot Study**

16MN025

藤原登茂

乳がん患者の妊孕性温存に関する知識獲得を目的とした看護師向け

e-learning 教材の開発:パイロットスタディ

16MN025 藤原登茂

目的:本研究は、乳がん患者の妊孕性温存に関する知識獲得を目的とした看護師向け e-learning 教材の試案を作成し、教育効果を検討するパイロットスタディである。

方法:本研究のデザインは、乳がん患者の妊孕性温存に関する知識獲得ならびに態度変容を目的とした e-learning の教材試案を作成し、教材の有用性や内容の妥当性を検討する介入研究である。e-learning 教材は先行文献等を参考にし、妊孕性温存の有識者である複数の教員の確認のもと作成した。さらに、妊孕性温存の十分な知識と経験のある専門家 6 名に教材の内容妥当性の評価を依頼し、適宜修正を行った。研究参加者に対し、事前アンケートと事前テストを入力した後 e-learning を受講し、その 1 週間後に事後テストと事後アンケートに回答するよう依頼した。テスト項目は、先行研究をもとに妊孕性温存に関する知識を問う項目（設問 1、4 問と設問 2、7 問）と、態度を問う項目で構成した。分析方法は、全データについて記述統計でまとめ、事前・事後テストの合計得点変化量について、Wilcoxon の符号付順位検定を用いて比較した。聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て行った（承認番号 18-A092）。

結果:研究参加基準を満たし、研究参加の同意が得られた 31 名に介入のうち、e-learning を受講し、事後アンケートまで回答が得られた 27 名を分析対象とした。知識テスト合計得点を e-learning 実施前後で比較した結果、設問 1 と設問 2 を合わせた 11 問の合計得点および設問 2 の 7 問において、有意に得点が上昇していた。さらに、がん看護経験年数 5 年以上 10 年未満と 10 年以上 20 年未満の事後テスト、知識得点変化量を比較したところ、事後テスト($p=0.024$)、知識得点変化量($p=0.043$)において有意差が認められた。学習を数回に分けて実施した参加者は 18 名(66%)おり、自身の都合に合わせて学習できる e-learning の利点を生かすことができた。また、e-learning 教材について参加者の 77.8%が役に立ち、他の看護師にすすめたいと評価した。

結論:本教材は、設問 1 と設問 2 を合わせた合計得点および設問 2 の合計得点において、有意な得点上昇に寄与した。一方、正答率が上昇しない問題については、教材内容を視覚的に分かりやすく修正し、評価指標としての知識テストは教材に相応する内容で作成する必要がある。また、がん看護経験年数 5 年以上 10 年未満に比べて 10 年以上 20 年未満の看護師により本教材が有効だったことが示唆された。今後は、がん看護経験年数ごとに対象をリクルートし、介入群と対照群 2 群以上の比較を試み、介入による効果の評価が必要と考える。